

# 百年企業

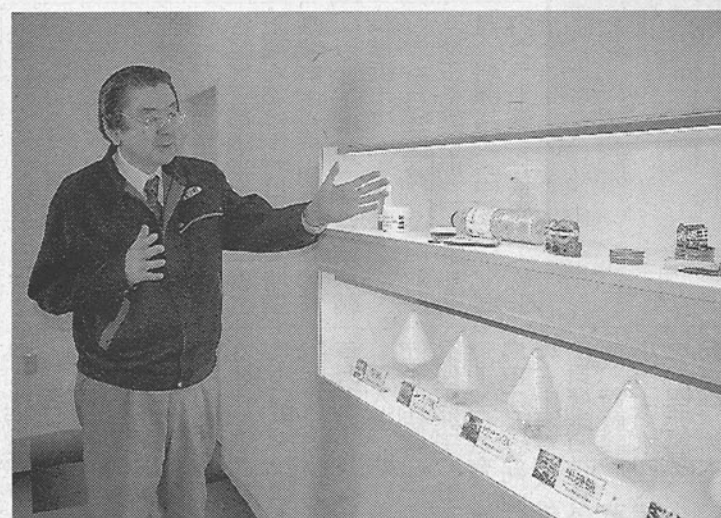
① 神奈川

## セラリカNODA

天然ろう精製

# 天然成分 こだわり多角化

くちばしで羽にろうをぬって水をはじく水鳥がいる。葉の表面にろうを出して乾燥を防ぐヤシがある。生物が身を守るために作り出すろうを、人類も古くから利用してきた。ミツバチの巣から採れる蜜ろうはミイラの保存に、遣唐使がもたらした木ろうは寺院の灯明に使われた。1832(天保3)年に福岡県八女市で創業し、戦後は首都圏に拠点を移した。ろうの特性を応用し、情報関連や食品、化粧品分野にも進出している。



蜜ろうや木ろうなど様々なろうについて語る  
野田泰三社長＝神奈川県愛川町、古沢写す

企業プロフィール 神奈川県愛川町中津／創業1832年／野田泰三社長／従業員24人／売上高8億円(2010年3月期)

ハゼの実から採る木ろうは、ちよんまげを結ぶ鬻付け油に珍重された。明治以降はポマードの材料として輸出もされたが、戦後は液体整髪料に押され、石油から安く作れるパラフィンも普及。野田泰三社長(58)が経営を引き継いだ1978年、会社

は存亡の危機にあった。大学で情報科学を学んだ野田さんは情報産業を成長分野と見込み、ろうの新しい使い道を探って企業を回った。飛び込んだ先の技術者が「溶けやすくて固まりやすいのか。じゃあコピートのナーにどうだろう」と試したところ、予想外の効果が上がった。キャンやリコーが採用

を決め、ワープロのカセットリボンやファクス感熱紙にも広がり、経営は持ち直した。約20年前からは昆虫が出すろうの研究を進め、樹木の害虫カイガラムシが出すろうの開発に中国の林業科学院と共同で取り組む。特定の木だけにつく種を育て、周囲に被害を及ぼさず収穫する道を開いた。雲南省などで大規模な植林を進めている。

安全性が高い天然成分100%のワックスも開発した。合成品の5倍と高価だが、住宅や家具の塗料が起す化学物質過敏症を抑えられる。口紅などの化粧品、チョコレートや菓子のコーティングにも進出。ろうの脱臭技術を応用してカップめん用の小切りジャガイモを製品化するなど、多角化も進めてきた。

野田さんは若い頃、家業を古いと避けていたが、夢中で働くうち気がつくど先祖の教えと考えが似てきていた。「根を切つて枝葉の栄える道理なし」「私

欲を起せば家を破壊する」。そんな家訓が自分にも息づいていた。野田家のルーツはキリシタン大名の筑紫広門だとの説を最近知った。「信仰は途切れても意識の底に宗教的な利他精神が根づいていたのでしょ」

経営理念の中心は「信」だという。先祖と自分が素晴らしいと思つたことを信じ続けることだ。「天然成分の良さは、優れた機能だけでなくもろさを併せ持つこと。人間が作ったフロンは安定性が強すぎるから、オゾン層を破壊する。天から授かった成分はそんな悪さはしない」

同社の創業は、飢饉にあえぐ農民救済や有馬藩の財政再建が目的だった。「ろうは貧者を救う」という信念は今も変わらない。台湾や中国に進出し、アジア各国から引き合いが相次ぐ。適正な利益を上げて現地も豊かになる道を探り、天然成分の良さを生かす企業のモデルになることを目指す。(古沢範英)